

2026年3月期 決算説明会

2026年5月8日

ZACROS株式会社（東証プライム：7917）

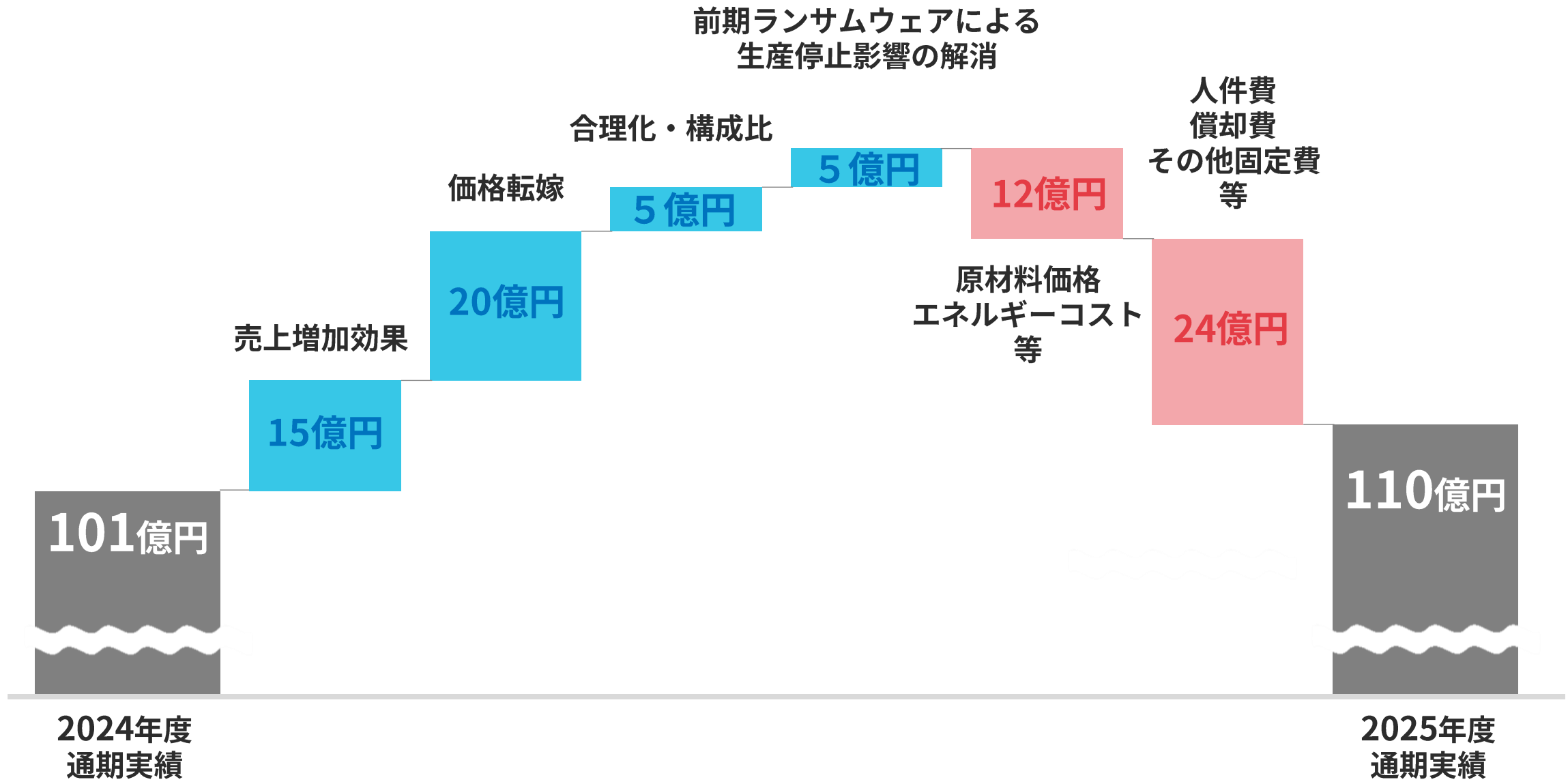
1 . 2025年度 通期業績	P. 3
2 . 2026年度 通期業績予想	P. 8
3 . 中長期経営計画 進捗	P. 13

2025年度 通期業績

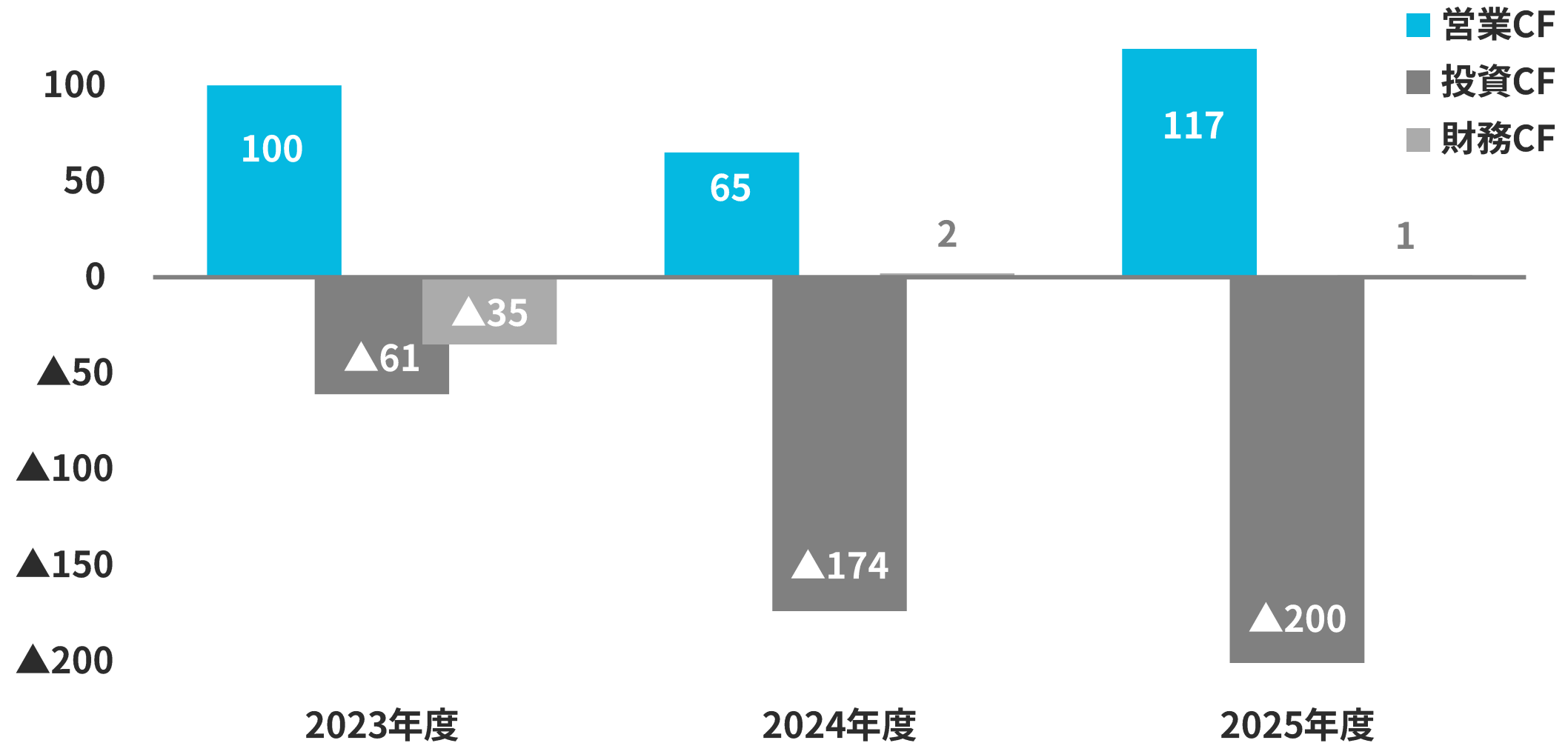
2025年度 通期業績は、前年度比で増収増益

（単位：百万円）

	2024年度 通期	2025年度 通期	前期比	
			増減	伸び率
売上高	150,735	158,535	7,800	5.2%
営業利益	10,116	11,054	937	9.3%
経常利益	10,366	12,303	1,937	18.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,530	7,707	1,176	18.0%



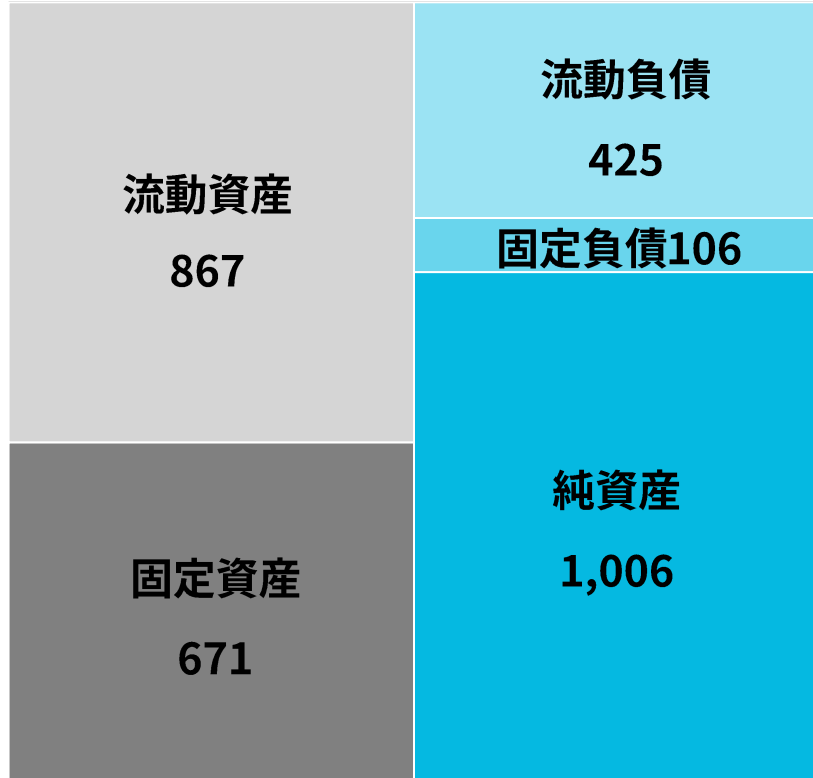
(億円)



総資産は28億円増加し、1,567億円となる

(単位：億円)

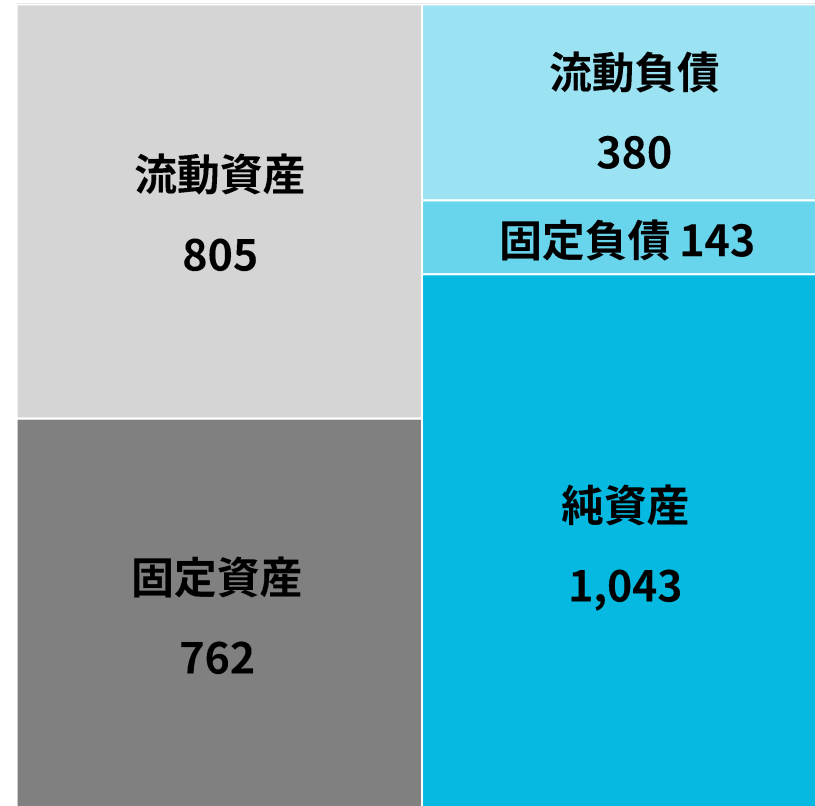
2024年度末



総資産 1,539億円

自己資本比率 59.5%

2025年度末



総資産 1,567億円

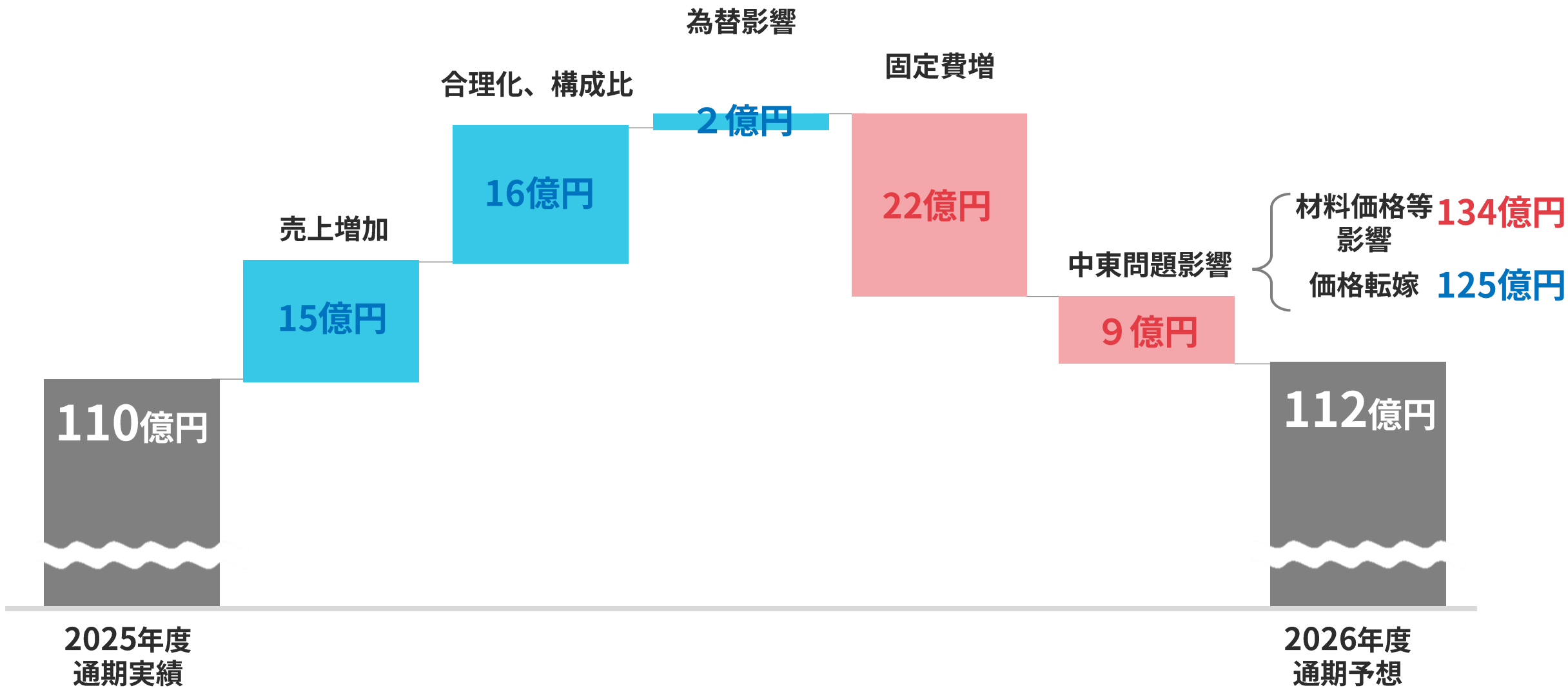
自己資本比率 60.5%

2026年度 通期業績予想

- 2026年度通期業績予想は、原材料・エネルギーコストの上昇を見込むものの、価格転嫁の推進により大幅な増収、営業利益も増益を確保
- 一時的収益を2026年度で見込まないことに加え、構造改革費用の計上により減益を予想

（単位：百万円）

	2025年度 通期	2026年度 通期業績予想	前期比	
			増減	伸び率
売上高	158,535	176,000	17,464	11.0%
営業利益	11,054	11,200	145	1.3%
経常利益	12,303	11,500	△803	△6.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益	7,707	6,500	△1,207	△15.7%

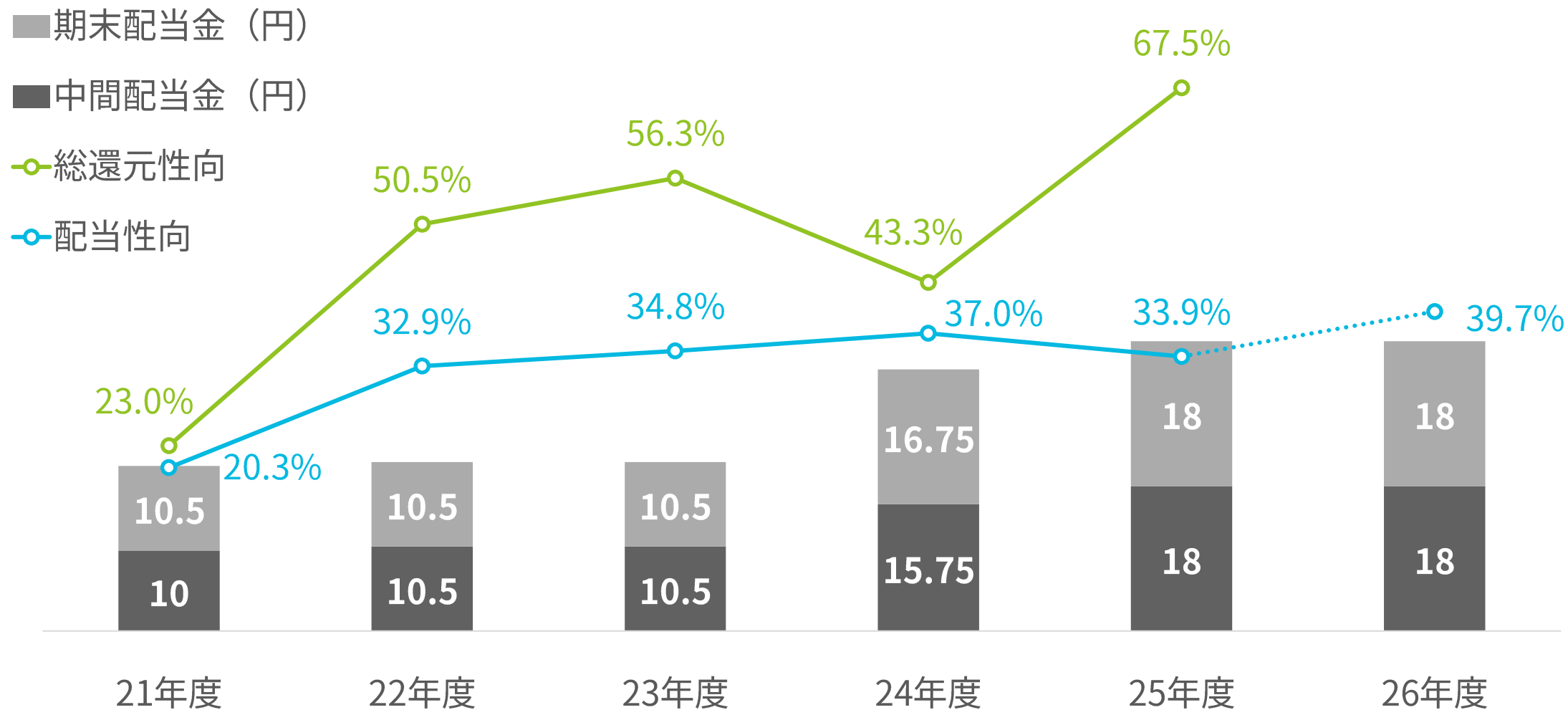


セグメント別損益 (2023/2024/2025/2026年度比較)

(単位：億円)

	2023年度 通期		2024年度 通期		2025年度 通期		増減	伸び率	2026年度 通期予想		増減	伸び率
売上高	1,361	100.0%	1,507	100.0%	1,585	100.0%	78	5.2%	1,760	100.0%	174	11.0%
ウェルネス	260	19.2%	271	18.0%	278	17.6%	7	2.6%	311	17.7%	32	11.7%
環境ソリューション	334	24.6%	326	21.7%	325	20.5%	$\triangle 1$	$\triangle 0.4\%$	368	20.9%	42	13.0%
情報電子	449	33.0%	539	35.8%	568	35.8%	28	5.3%	623	35.4%	54	9.7%
産業インフラ	316	23.2%	369	24.5%	413	26.1%	43	11.8%	458	26.0%	44	10.8%
営業利益	83	6.1%	101	6.7%	110	7.0%	9	9.3%	112	6.4%	1	1.3%
ウェルネス	8	3.2%	5	1.9%	$\triangle 2$	$\triangle 0.7\%$	$\triangle 7$	—	1	0.3%	3	—
環境ソリューション	14	4.3%	12	4.0%	14	4.5%	1	12.5%	18	4.9%	3	23.3%
情報電子	30	6.7%	42	7.8%	47	8.4%	5	13.4%	42	6.7%	$\triangle 5$	$\triangle 12.0\%$
産業インフラ	30	9.6%	40	11.1%	50	12.2%	9	22.9%	51	11.1%	0	1.5%

安定かつ継続的な配当及び機動的な自己株式取得を実行



※ 2025年10月1日に株式分割を実施しておりますが、過去すべての期において当該株式分割が実行されていたと仮定した場合の数字で表記しております。

中長期経営計画の進捗

- 2030年度のROE12%を目指し、積極投資による構造改革を断行

		2021-23年度 (実績)	2024-26年度 (計画)	2027-30年度 (目標)
位置づけ		基盤強化・準備	積極的な先行投資	投資成果の収穫
取組み		<ul style="list-style-type: none"> 既存事業・生産拠点の増強 新規事業の追加・加速 コーポレート機能の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスモデル進化 ポートフォリオ変革 バランスシート改革 	フリーキャッシュフローの安定成長に資する投資
最終年度	売上高	1,361億円	1,650億円	2,200億円
	営業利益率	6.1%	6.1%	10.0%
	ROE	5.4%	6.2%	12.0%
	EBITDA	142億円	200億円	330億円
期間中の投資額		179億円	700+α億円 ^{※1}	400+α億円
株主還元方針		安定的・継続的配当	安定的・継続的配当を維持	
配当性向		20.3%→32.9%→34.8%	40%を目安とする	安定かつ継続的な配当を予定
年間配当額 (※2)		20.5円→21円→21円	32.5円 → 36円 → 36円 (2026年度予想)	

※1 M&A費用は「+α」に含む
 ※2 2025年10月1日に株式分割後の数値で統一

- 収益性の最大化と2030年度を見据えた経営基盤を構築

【2024-2025年度】

- 積極的な先行投資
- 事業の見極めを実施

【2026年度】

選択と集中によるポートフォリオの見直し

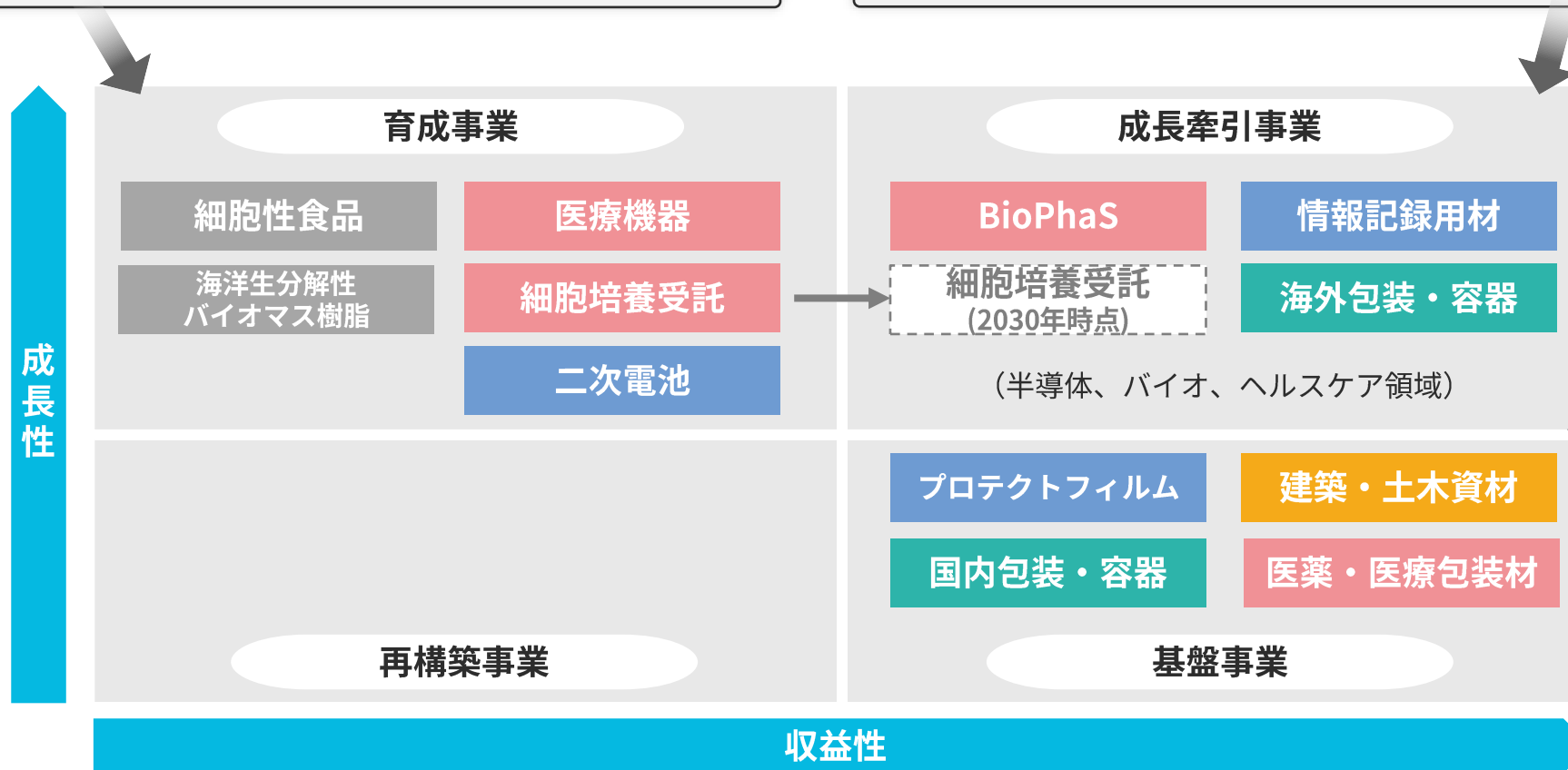
- 「成長牽引事業」の強化
- 「基盤事業」の収益性強化
- 「育成事業」の見直し

育成事業の見直し

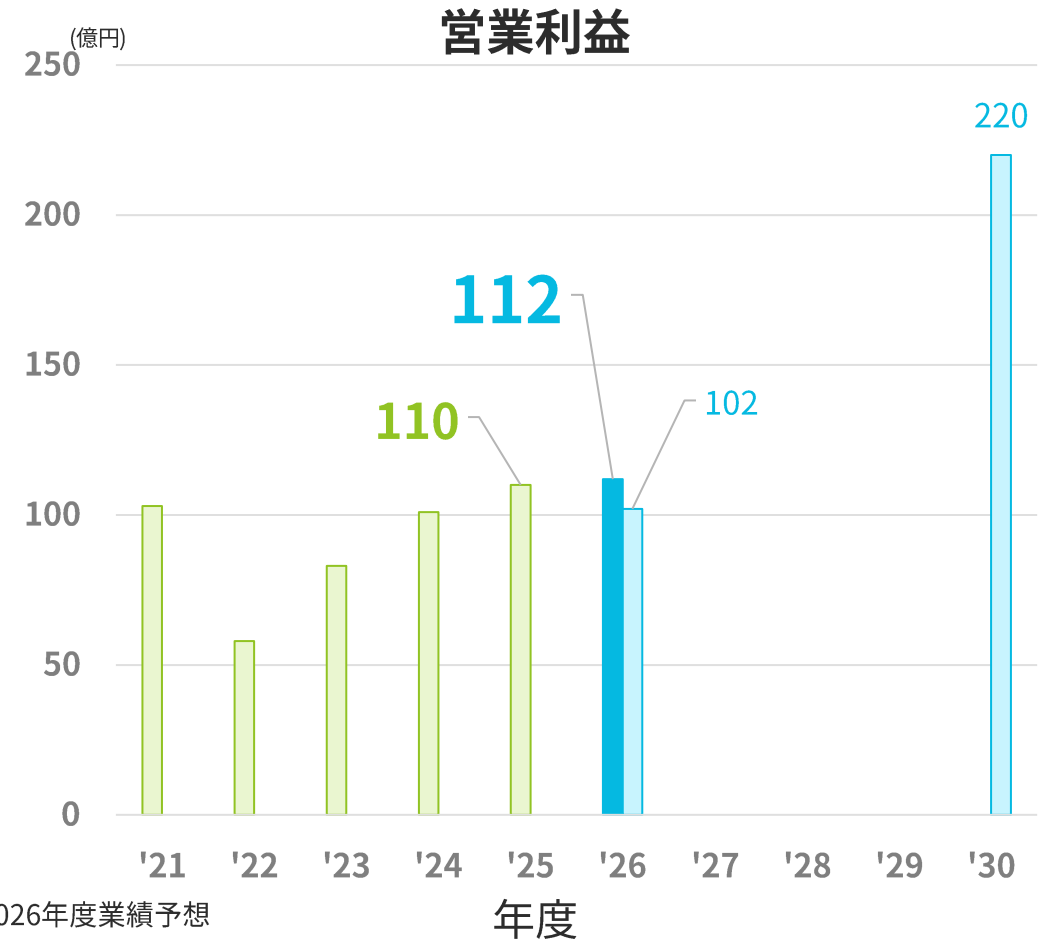
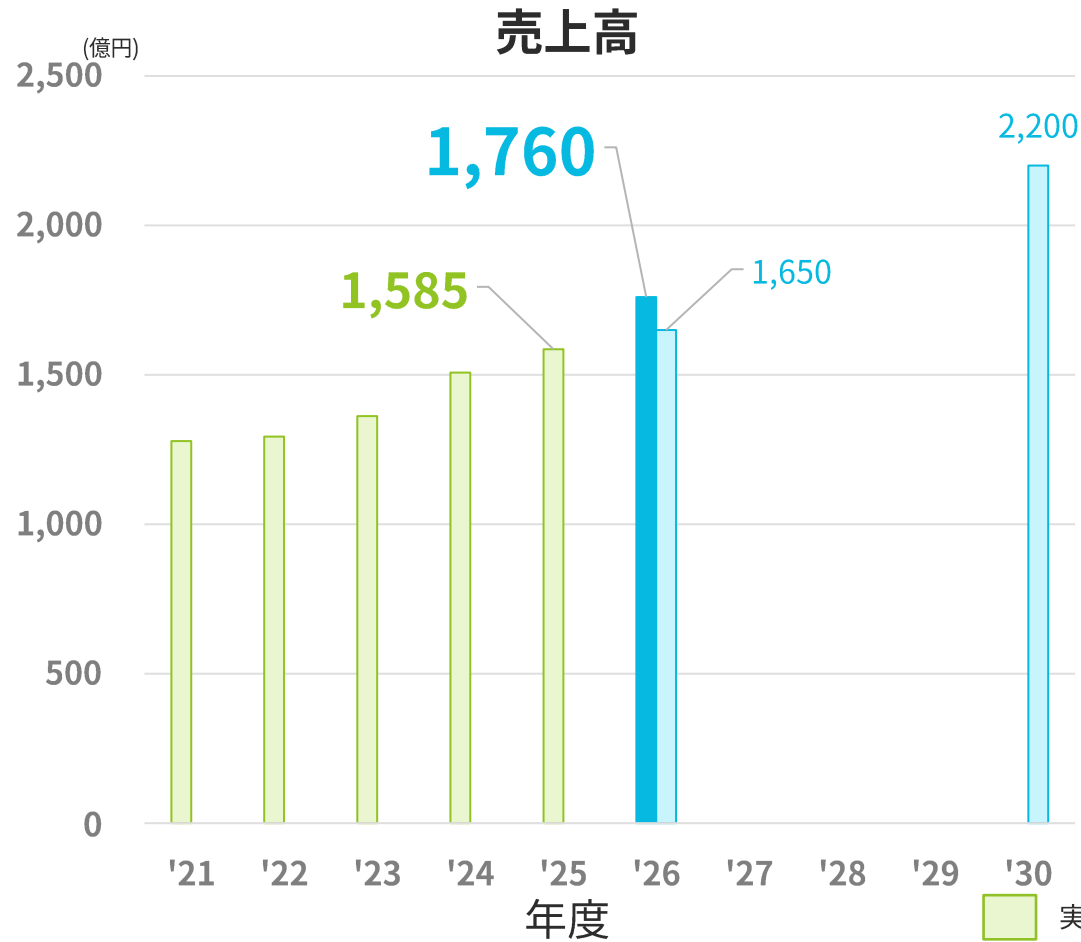
- 昨年度製品出荷を開始した細胞培養受託事業の早期収益化、事業成長を目指す
- その他のテーマは市場の状況等を考慮し、日程・規模を修正し、リソース配分を適正化

成長牽引事業の活動継続と基盤事業の効率化

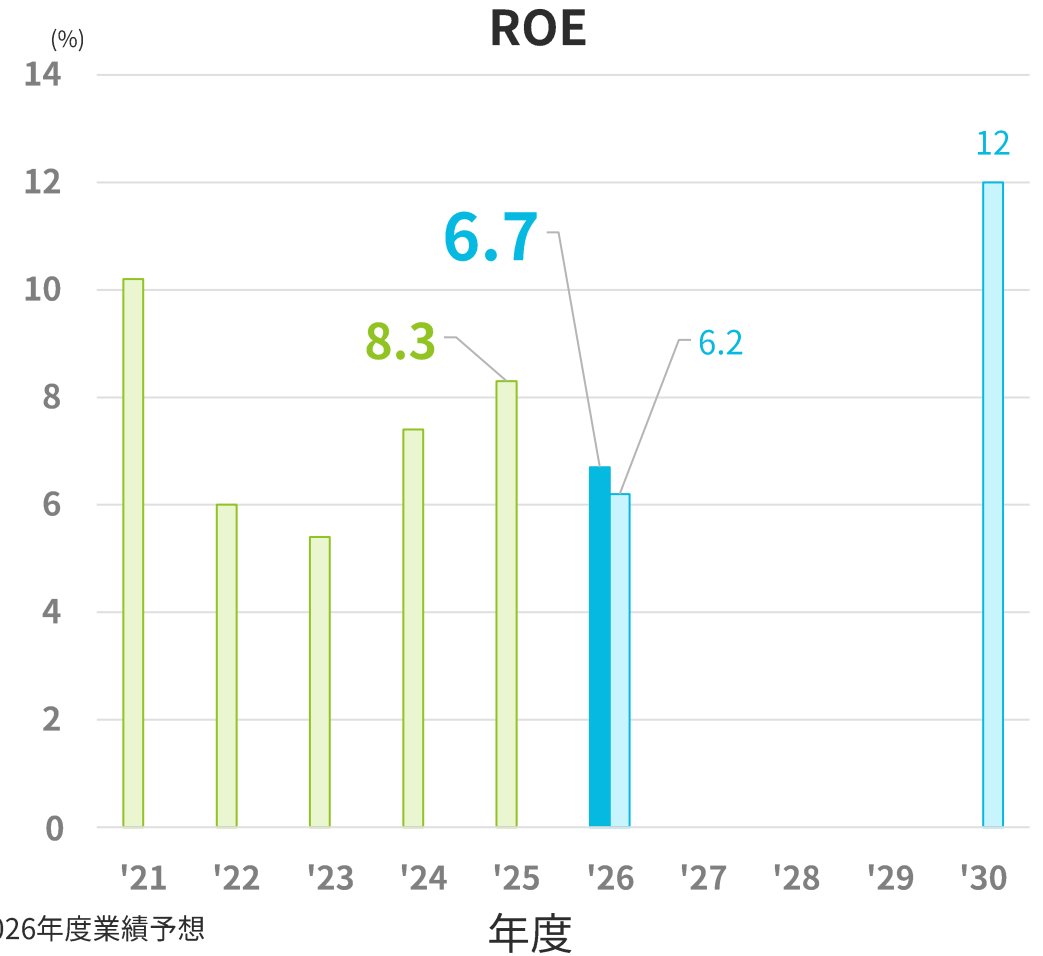
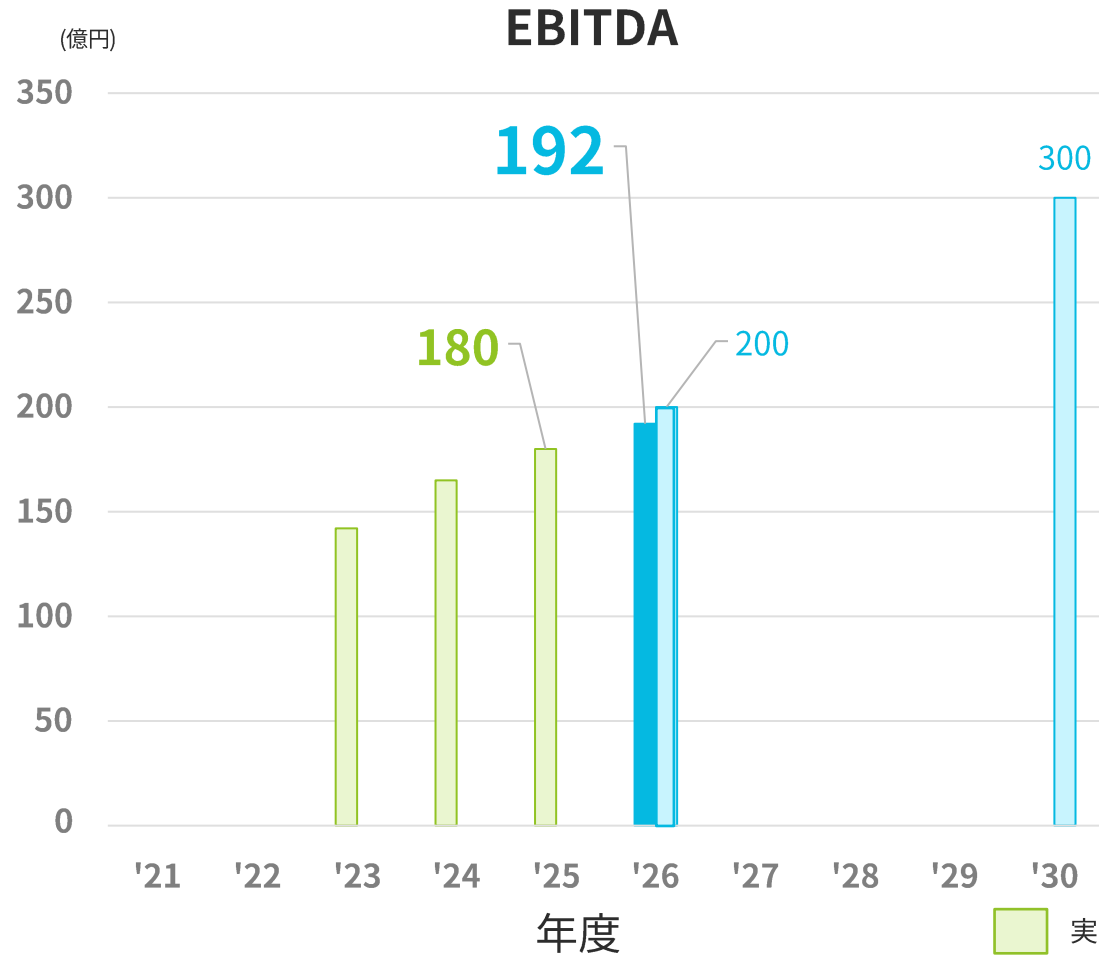
- 成長牽引事業の成長実現により中長期経営計画の達成確度を高める
- 基盤事業のオペレーション効率化による収益性の維持・向上を図り、当社成長を支える



- 売上高は、価格転嫁の推進により大幅な増収を達成、2030年度目標に向かって順調に推移
- 営業利益は、原材料・エネルギーコストの上昇を見込むものの増益を確保

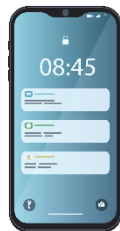
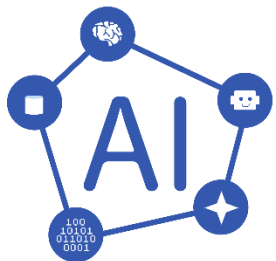
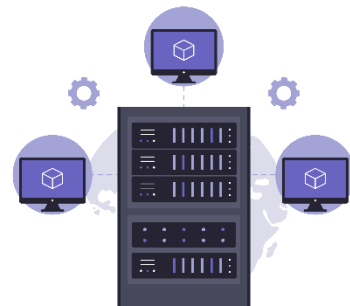


- EBITDA, ROEは、2030年度目標に向けて順調に推移

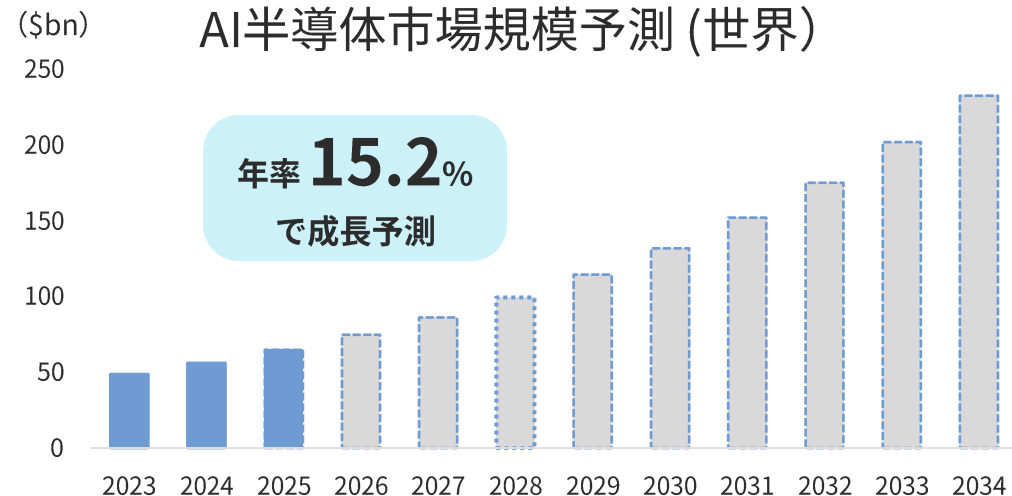


■ 実績 ■ 2026年度業績予想
■ 中長期経営計画設定時の数値目標

PC、サーバーの底堅い需要に加えAI分野の成長によりデータセンター向け半導体を中心に市場成長



AI半導体市場規模予測 (世界)



出展：Precedence Research

需要動向を見極め、生産能力の増強に向けた投資も進め、半導体分野での事業成長を目指す

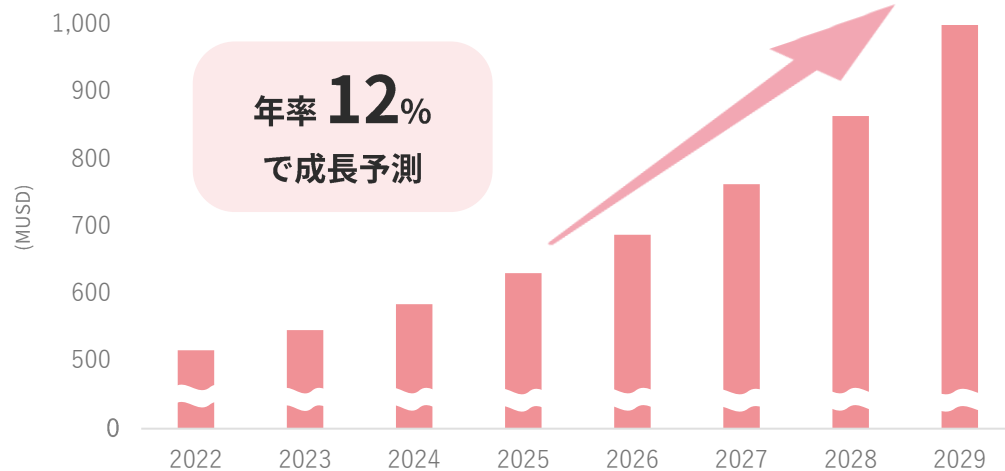


昭和事業所

半導体業界のデファクトスタンダードであるABFの増産対応に注力し、加えて、ハイクリーン環境下での精密塗工の新規需要開拓を進める



シングルユースバイオ医薬品等製造機器の市場規模予測



出所：各種文献をともに弊社内で作成

国内初のシングルユースバッグを開発

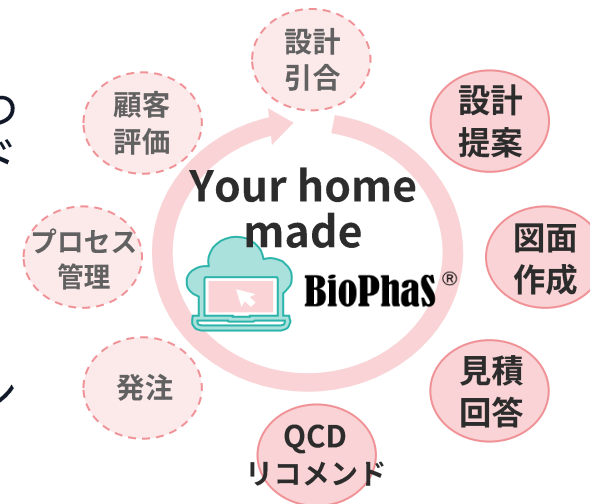
国産化の取り組み「J-STAC」の旗振り役として他7社と共に推進し、一部製品を市場実装開始



シングルユース部素材設計支援ツールの導入

最適な部素材の組み合わせ導出により設計リードタイムを大幅短縮

脱属人化とストレスフリーな調達環境実現へシステム開発を推進



2024年6月
第二製造棟稼働

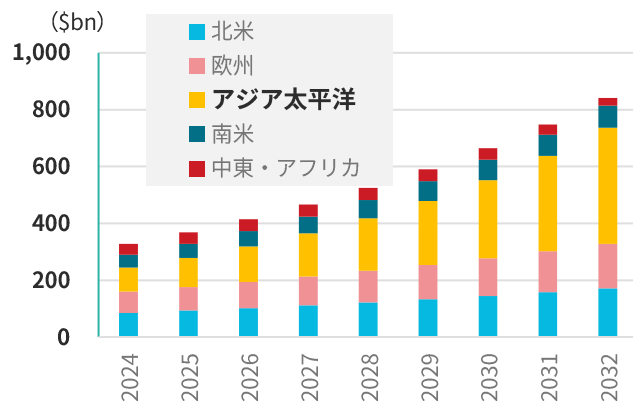
生産スタート



三重事業所

健康診断市場規模（世界）

アジア太平洋地域は、人口増加と生活水準の向上により健康診断市場の増加を見込む



出典：Data Bridge Market Research世界の健康診断市場の規模、シェア、トレンド分析レポート - 業界概要と2032年までの予測を参考に当社作成

キュービテナーは、体外診断用医療機器向け試薬容器のデファクトスタンダード

これを軸に新規顧客との接点を作り、主力製品やサービスの中国・インドおよび周辺地域へのマーケティングを推進



2026年上期稼働開始予定

賽諾世精密材料（無錫）有限公司

2026年4月営業開始

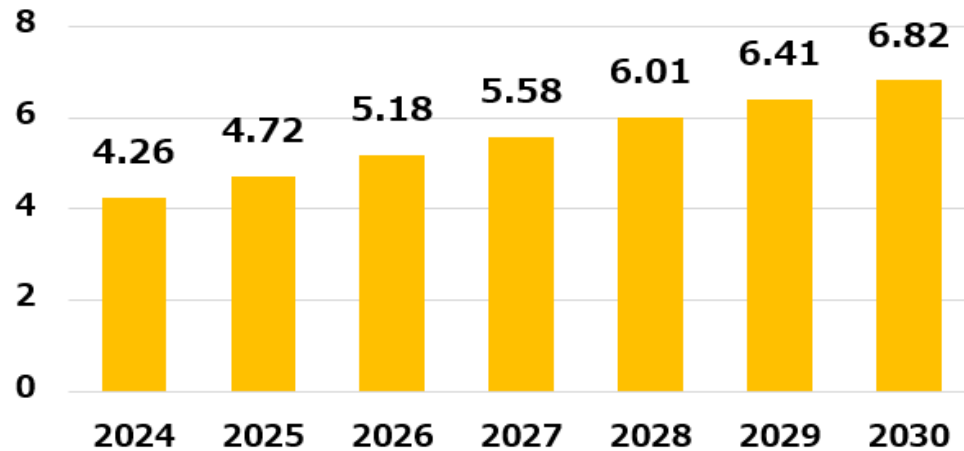
ZACROS INDIA PVT. LTD.

使用済みキュービテナーの水平リサイクルを実現

「HISCL™ラインウォッシュャー濃縮液」の容器に採用されております



国内データセンターサービス市場規模予測（兆円）



出所：株式会社メテオ総研、データセンタービジネス市場調査総覧 2026年版サマリー

ハイパースケールデータセンターへ 非常用発電機 排気用煙突を提供

AI普及が顕著になり、
国内のデータセンター需要は拡大

その需要拡大に対し、
非常用発電機 排気用煙突向けの
設計▶生産▶施工を対応



煙突設置例

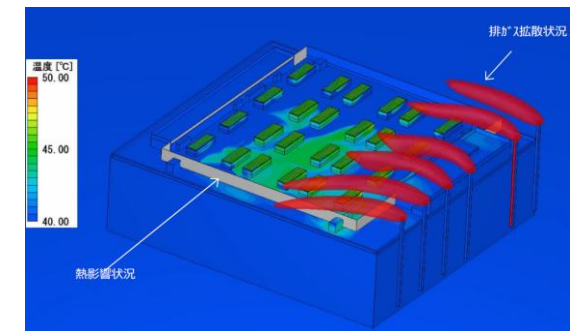
関東工場の新棟建設
製造ラインの自動化により
生産能力の増強と品質の安定化を見込む



関東工場 新棟

2026年4月稼働開始

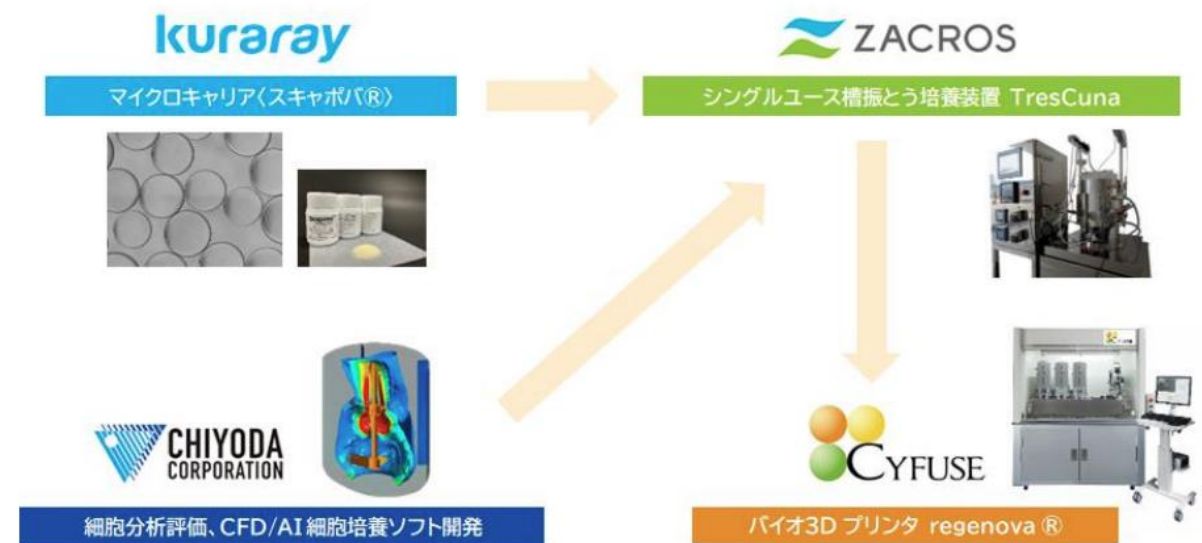
周辺への熱や排気音の影響を
抑えられるように数値流体解析等
を用いた事前検証ができる体制を
強化中



数値流体解析例

・ 4社協創プロジェクト始動（2025年10月1日記者会見）

- ・ クラレ、サイフューズ、千代田化工建設との4社で、AI・デジタルツイン技術を活用した細胞大量培養の製造プラットフォーム構築に着手
- ・ バイオ医薬品製造に不可欠なシングルユース製品「バイファス」を展開。その発展として、独自開発の動物細胞培養装置「Tres Cuna」で、再生医療等の細胞大量製造の実用化を目指す



- 「積極的な先行投資」の方針に基づき、2024年度は236億円、2025年度は175億円の投資を実行
- 手元資金に加えて有利子負債を活用し、バランスシート改革を推進

	原資	資金使途	2024-26年度	2024年度	2025年度	2026年度
			計画	実績	実績	見込
2025年度末 手元現金 148億円 (約172億円減)	2023年度末 手元現金 321億円	投資	700億円+α	236億円 (進捗率34%)	175億円 (累計進捗率 59%)	159億円 (累計進捗率 82%)
	営業CF 370億円 ※中長期経営計 画を据え置き					
2025年度末 有利子負債 約88億円増	負債 +α	配当	-	24億円	25億円	25億円
		自社株買い		29億円		

24-26年合計
成長投資（三重、沼田など） 262億円
海外関係会社投資 126億円
維持投資など 183億円

